

第2回学校関係者評価会議 議事録

日時：2017年9月13日（水）16時～17時

場所：厚木看護専門学校 会議室

1 開会

2 学校長あいさつ

本日は、委員の皆様方、大変お忙しいところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

早速でございますが、私から4点ご報告をさせていただきます。

先ず、当校は、平成29年2月に文部科学大臣より職業実践専門課程の認定を受けました。

2点目に厚木看護専門学校職員倫理規程を策定いたしました。学内に掲示するとともに、教職員は日々意識できるよう各自名札に入れて、学生と関わるようにしています。

3点目に看護第二学科の閉科です。平成30年度入学生の募集をもって停止といたします。県内においては、准看護学校の閉校が進んでおり、平成30年度からは自衛隊横須賀病院准看護学院のみとなります。

4点目に授業料の値上げです。来年度より新1年生は月額3,000円値上げし、月額23,000円。在校生は月額2,600円値上げいたします。これに伴い、実習施設への謝礼金は現在、学生1人1日あたり150円としていますが、県が1,000円としたことも踏まえまして、1,000円としていきます。

委員の皆様方の位置づけは、当校のサポーターと考えております。本日は、今後のより良い学校づくりに向けて、率直なご意見をいただきたく、よろしく願いいたします。

3 委員紹介

4 報告（自己点検自己評価会議担当より報告）

「自己点検・自己評価 2016年度の結果と取り組み」について説明いたします。

当校は、専修学校に位置づけられており、教育の質を向上させるため、学校の運営について、毎年、自己点検・自己評価を行っています。

1、2頁は2016年度の自己点検・自己評価の取り組みの総括と実施について、3頁には2015年度と2016年度の結果の比較、2016年度教職員の評価と事業団の学校関係者の評価の比較を掲載しています。

評価点につきましては、4が適切、3がほぼ適切、2がやや不適切、1が不適切の4段階で評価を行っています。

全体平均は2015年度3.58、2016年度3.57。2016年度は0.01ポイント下がりました。学校としては3.5以上を適切と考えています。

なお項目別に見ますと、3.5以下の項目は、「学修成果」が3.3、「財務」が3.4でした。

5 議題「看護師としての態度育成」

<学内 A 委員>

本日の議題は「態度育成」に視点を絞りました。当校は、巷では厳しい学校であるとの噂が流れています。高校訪問に行ったところ「軍隊」と言われているような実情もございます。私たち関係者は、自負を持って教育をしておりますが、それが自己満足にならないよう、社会の声ですとか、今の看護師育成ニーズを踏まえて、私たちの教育のあり方を少し評価していく時期ではないかと学内での話となっています。委員の皆様からご意見を頂戴して、もう一度、教育を見直していこうと、本日、このテーマを上げさせていただきました。最初に、お配りしました「学生心得」を学内 B 委員から説明させていただきます。

<学内 B 委員>

資料の「学生心得」は、入学時に配っている「学生便覧」の冊子の最初に書かれている項目となります。

学生さんたちは、入学の目的として「看護師になる」夢を持って当校に来られる。教職員は、「看護師にする」ために態度育成の一環として、「学生心得」を入学時のオリエンテーションで説明しています。

厚木看護専門学校の組織の一員となるという視点で、学生に理解してほしいこと、学生が常に心がけていなければならないこと、それを何故心がけていなければならないのか、また看護師に求められる接遇の基本や、その接遇やマナーを学ぶ意図についても説明しています。

(資料「学生心得」の補足として、4の学生の品位、6の校内美化清掃、12-15の学内での時間管理、17の持ち物の自己管理、18-19の医療従事者としての守秘義務、電子媒体やSNS等の情報管理に関して説明)

以上、簡単ではございますが、説明させていただきました。社会が求める看護師教育と差異がないか、忌憚のないご意見をお願いいたします。

次に学生が作成した DVD を上映いたします。この DVD は新入生歓迎会の時に、上級生がこれから入ってくる後輩を慮って、安心して学校生活を迎えられるように作成したものです。ご覧いただき、是非ご意見をよろしく願いいたします。新入生の歓迎会で出し物に関しては、何が出てくるのか、教員は誰も知りません。学生生活を過ごしやすくするためには、こんなことを知っておいた方がいいというものを、吸収しやすいよう流行を取り入れながら発表しています。

(DVD 上映)

<学内 A 委員>

学生同士が申し伝えていくことを含めて、当校の学生に対して皆様方が普段思っていること、あるいは学外での様子に関してのご意見、ご助言があればお受けしたいと考えております。

6 意見交換

<関連業者等関係者委員>

「学生心得」の内容は基本的には、学校で守ってもらわなくてはいけないルールだと思います。現場に新卒で入り、看護師として倫理的な観点から、例えば「うそをつかない」ということをきちんと守れるか、が問題となり、辞めていかざるを得ない人が出ます。そうなった時に感じること

として、看護師の倫理的な行動面をしっかりと押さえる必要があります。入職直後に、新人はいろんな出来事が起きると右往左往してしまうところがあります。次から次へと「うそ」を重ねていき事態收拾がつかなくなり、追い込まれて自ら辞めてしまった事例がありました。こういう事例は特別だと思いますが、学校では、どのようにして学生から発信される情報を押さえていますか。

<学内 C 委員>

日々、学生から体調不良による学校への電話連絡、時間が守れなかった等、様々な報告が入る中で、教員が万一「うそ」と読み取れる場合には、タイムリーに事実確認をして「うそ」を絶対につかないということを、教育として徹底していると自負しています。

「うそ」をつくということはどういうことなのか、その先も「うそ」をつかない＝誠実であることを、徹底することに対して、本当に日々苦慮しているところです。家庭におけるこれまでの教育が前提としてあって、学校生活の中で「うそ」があってはならないことを徹底していけると考えます。

<関連業者等関係者委員>

現場でも新卒を受け入れた時点で人と人、患者さんとの接し方を教育しています。

追い込まれていく中で、「うそ」をつくことがあるのだと思います。そういうことが現場で積み重なり結局居ることができなくなります。看護師としての感性の部分をきちんと押さえていかなくは、学校と職場の両方で押さえていかななくてはいけないと考えます。

<学内 B 委員>

看護第二学科で准看護師として働いた経験があり、准看護師の働いた経験の中で、「傷つき体験」あり、失敗をすごく責められた方がいらっしゃいました。その学生さんは中々正直に伝えることができなかったです。もちろん1年生から3年生までに、失敗したときにも、学校の中では安心して伝えられるということを日々の中で伝えていきます。学生さん達に対しては、きちんと正直に言ってくれたときに「ありがとう」と伝えること、とその学生さんが変わっていくところを少しでも伝えていくことを心がけていました。

その学生さんが学生時代に「うそ」をつかずに過ごせたのか、ということがその後の評価につながると思います。人間関係づくりを考慮して関わっていくように努めています。

<関連業者等関係者委員>

言葉が足りない、コミュニケーション不足という面もある、と気づいています。個々の特性を理解して働きかけを変えていかななくてはいけないと思います。

<学内 A 委員>

ここまで聞かせていただいて、「うそ」という課題への対応はそんなに変わりません。本当に看護師としての資質に課題がある場合もあります。まず、理解してもらえるように形を整えてから、働きかけ方を変えていきます。

<関連業者等関係者委員>

貴校の学生さんが実習においでになって、きちんとしていると感じています。態度もとても良いと思います。軍隊みたいな印象があるのかも知れませんが、そういうふうな教育をしていらっしゃるの、病院に就職したときの身だしなみをチェックしても、ほぼきちんとしていると感じています。どうして、それが必要なのかというところを押えて、看護師として、社会人として、専門職と

してという点も押さえて伝えていくことで、理解してくれるのだと思います。

1つ気になるのは、SNS のことです。社会人になって LINE で連絡を取り合う、今日の出来事を報告し合う、随分と難しい状況になっています。病院でも指導者と新採用者との関係もきちんと話し合っただけで進めて行くことをしているのですが、指導を LINE で行って、それにより受け手が落ち込んだりするところもあり、難しいところです。

病院の中で、指導者会議や担当者会議を進めていく中で、「今日はここがこうだったよ、ああだったよ」ということを LINE で送ったりすると、送る側に悪気は無いが、やり取りの中で受ける側がショックを受けたり、指導者側の勘違いも起きたりしています。きちんと話し合い、お互いに顔を見ながら話すよう指導しています。SNS は使い方がとても難しいと感じています。

<保護者委員>

先ほど退職した方の話がありましたが、「学生心得」含めて勉強をするときから意外と病的緊張があります。特に働いてからは、人の命と関わることで、緊張があります。直接命に関わる仕事という面で、学生もいろんな勉強しながら緊張感もあります。いい加減な取り組みをしたときには、先生方から厳しい成績が付けられます。そういう中で学生の心のケア等、学内に相談できる窓口はあるのでしょうか。

<学内 C 委員>

まず、スクールカウンセラーが毎週木曜日の放課後來ています。スクールカウンセラーとの話は、教員は一切耳にしません。

あとは、クラスに1人、Aクラス、Bクラス 80人に2人の学生係の教員が居て、学生生活を支援する役割に付いている状況です。それでも言い出しにくかったりすることがありますので、基本的にはどの先生に対しても相談できるようにしてくださいと学生には伝えています。

また、教員が何らかの逸脱した行為を意図的にしていると感じるようでしたら、学科長あるいは学内 A 委員の方に遠慮なく話に来てくださいと伝えています。

<保護者委員 A>

先ほど、SNS の話がありましたが、今は見えないところで、いろいろな情報や人とのやり取りがあります。昔は、高校生の頃、女の子に電話する時、「お父さんが出なければいいのになあ」と思いながら電話をしていました。家族の誰かとそうしたつながりもありましたが、今は全くわかりません。

勉強以外についても、人間関係に関わること、大変な時期にそういう指導をきちんとやっていただければ良いと思います。先ほど厚木看護さんは厳しいという話がありましたが、厳しくしないと効果も出ないのではないかと思います。この地域では、最近、松蔭大学さんと神奈川工科大学さんが看護学部を作りました。今まで専門外だった大学さんにも看護が広がっています。地域の中で厚木看護さんへの信頼、厳しく指導してくれる学校ということで、応援していきます。

<学内 C 委員>

一点見えにくいところがあるということでは、学生同士が放課後に LINE やツイッターでやり取りした結果、誹謗を受けたと訴えた学生が過去に居ました。私たち教員は把握に努めておりますが、限界も有るところです。メンタル面で少し重たい状況になる前に、表情が浮かかないとか、学生係の教員が少しでも早めにキャッチする。学生から申し出が無くても、教員の方から声をかけて少しで

も早めにキャッチできるように努めています。

<保護者委員>

厚木市内の大学が看護学部を開設した理由は、またその真価とはどういったものなのでしょうか。医療系と異なる系統の大学が看護学部を作るということは、どういった流れからなののでしょうか。

<委員長>

世の中の的に学生確保が厳しくなっている中で、看護学部を作ると、学生は集まりますし、就職率も高くなります。ちなみに本校の就職率は100%です。看護界でも4年制の教育機関を推進しています。3年間ではなく4年間かけてしっかり学んでいく。そういった流れが高まってきています。

<保護者委員>

県立にも4年制へ移行した養成校が1校ありますね。

<委員長>

3年間でのカリキュラムですと、非常にタイトできつきつとなり、返って厳しくなります。4年間あればゆとりがあります。

<保護者委員>

許認可は取りやすくなっているのでしょうか。厚木市内の大学は、レベルが中々掴めないのですが。

<委員長>

入学実績は、保たれているようです。

<保護者委員>

短期大学も2年制のなので忙しい。逆に4年制の学校に行くと少し余裕があります。

夏休みは1日も休まず、課題も提出して、逆に4年制よりも詰まっていて、しっかりと学んでいます。大学で、少し時間的な余裕がありアルバイトしているところよりも学んでいます。大学に入ってから一番勉強しています、と逆の流れになり、どうなのかな、という気もします。その方向性でも4年制大学の状況は、どうなののでしょうか。

<委員長>

10校程度しかなかったのが、現在は250校位となっています。すごい勢いで増えています。

<講師委員>

SNSの話なのですが、携帯とかSNSでコミュニケーションを取るのと、面と向かい合ってコミュニケーションを取るのとでは、どちらかと言えば、学生はSNSの方に心地良さを感じています。その中で自分を出せるといった傾向が強くなってきています。実際に、特に我々教師と学生が面と向かって話をする時に、我々が感じている以上に学生の方が緊張感を持って相対していると思います。ここの学生に限定して感じたことを申しますと、10年前、20年前の学生よりも距離が遠くなりました。きちんと躰られているので、礼儀とか行動は非常にきちんとしており、他にも例を見ません。だけれどもその中で10年、20年前の学生はもっと近寄ってきて、お互いに思っていることをコミュニケーションできたのですが、それも中々出来なくなっている、と感じます。

「うそ」という話も、ここ何年か、受け持っている学生もこちらが想像もつかないような「うそ」を言ってくる。言っている自分にとっても損になることも平気で言ってくる。我々は、それを理解できないです。何故そんなことを言ってくるのか、SNSの世界とダイレクトのコミュニケーション

ンは本来別物であるが、学生にとって同じものに成りつつあります。

<学内 A 委員>

私も 5 年ぶりに学校へ戻ってきました。その前に 15 年程専任教員をやっていたのですが、確実に教員と学生の関係性が遠くなった、とひしひしと感じました。

厚木看護専門学校の教育の歴史や風土が脈々と受け継がれていくのですが、それを学生たちがどう思い引き継いでいけるのか、といった感覚が無く、本当にどこまで厚木看護専門学校在今まで正しいと思ってやってきた教育を続けていけるのか、というようなことを、最近少し考え始めています。その中で、「やっぱり遠くなってきているな」と少し感じたりします。

教員たちには、「厳しくしてもいい。けれども厳しさの理由をきちんと学生に伝えること」と、「絶対に全員で厳しくしないこと」を言っています。逃げ場も作っていかないと追い込まれるだけで、教育する側もバランスをすごく考えないといけないと感じています。

<講師委員>

こちらから優しくして、距離を詰めていこうと思ひ、歩み寄っても距離が中々縮まりません。我々も、若い学生の行動や思いをちゃんと受け止められていないと思います。

<学識経験者委員>

DVD を見た印象として、逞しい学生さんだと感じました。どのような教育を受けて、どこへ就職していくのか。国家試験の合格率も高く、すごく頑張られていると思います。

距離が遠い、例えば「うそ」をつくということは、追い込まれた状態です。何故、うそをついたのかということ丁寧に触れます。学生は、「心得」というものに対して、禁止と捉えます。つまりいたときに理由を聞いてもらえる、教員にも知って(共有して)もらえるということが大事です。

私のところでも 30 分位遅れで提出しに来て「何でそんなに遅れてきたの?」と聞きましてところ、「ほかの学生に聞いたら、提出期限は〇時だったと言われた」と答えました。SNS とかに学生が乗せられてしまっている状況だったりします。臨床に行った時に、友達からの情報でいろいろなことを確認するような行為はいかかなものか、と感じています。

今時の学生について思うところは、これだけ少子高齢化が進むと基本的に重たいのだと思います。どこを歩いても高齢者ばかりで、自分たちで背負っていかないといけなくなっています。

高齢者との関わりの中で、自分達の中で支え切れない、高齢者も自立してくれ、みたいなそういう世代になってきています。私が学生のとき、40 年前は高齢者がこんなに居ませんでした。医学業界も明るいものでした。今は、学費や学生の小遣いも厳しく、10 年前、20 年前と比べても学生を取り巻く環境は良くありません。医療人として学生を育てるのにあたり、到達レベルに到達してほしいと願っています。私が所属している保健医療学部には、理学療法学科、作業療法学科、看護学科とあって、理学、作業は緩いです。実習に行きますと、「他は髪を染めていても怒られないのに、何故、看護はこんなに怒られるのですか」と非常に素直です。看護は教育をきちんとやっています。髪も一つに縛るといふことで規律も厳しくしています。他職種といふことで言えば、共に学ぶことで違った視点も見えてくるものです。

<保護者委員>

「うそ」をつくことは、怒られたくないとか、自分を守ることで、怒られることは全ていけないことと捉えています。上司や先輩に怒られることが、大きな事故にならないための愛情という捉え

方でプラスに転換できるようになると、本人の考え方が変わっていくと思います。

臨床に出て、患者さんから見たら、命を預けているので、お構い無しになります。今の時代だからとか、若い子だからとか、そんな目では見てもらえません。病棟では、学生や看護師がメインではありません。患者さんの命に対して、いろんな人達が関わります。(学生を)守ること＝「よしよしする」ことでは、臨床で潰れてしまい、うそをつくことが起きてしまうのだと思います。

怒られても怒られることが全て悪いのではなく、決定的な失敗はだめだと思います。その前に積み重ねて、経験なのだを教えていただいた方が良いのではないかと思います。私は、こういうことは全然、厳しいとは思ってなくて、家でもどんどん言っています。今の子は解らないことが多いので、自分の家族が患者だと思って、その時にどうするかを自分で考えさせて、限界まで来て、後は危険なことかどうかを想像できるようになって、また少し怒られても、これが起きる前に怒られたとすると消化できるようになるのだと思います。

<卒業生委員>

距離感のことですが、軍隊ではなく、寺子屋だったと感じます。講師として学校に戻ってきたとき、玄関に入ったときに寺子屋だったと感じました。

病棟で看護学生の実習を受けるとき、「厚看生はこの学生さんですか？」と聞いて、「この学生さんですよ」と答えが返ってくると、「やっぱりそうだろうな」と感じます。

自分は厚木看護で学び、教育を受けきて、臨床に入り、困ったことはなかったです。他の学校の人は、当たり前のことできなくて困っていました。

<地域関係委員>

ここの学生さんとは、日常はあまりお付き合いがなくて、敬老会とかで特別に応援していただいて、お付き合いがあります。したがって、学生さんをどうこう言うことを、今日は、持ち合わせていません。

今、厳しく学生教育をやられていて、この学校は厳しいという噂があるのかな、と思っていたところです。僕らの、もう 50 年前、半世紀前の時代では、怒られて、どやされて育ってきました。怒られる理由は、怒るその人その人が持っている価値観で怒られます。何が正しいのか、このおじさんが言っているこれが正しい、こちらの爺さんが言うっているこれが正しいとか、いろんな人がいろんな価値観をぶつけてきます。それを真面目に受け止め、逃げたり、あまり逃げないように退路しながら、育ってきていますから、怒られることなんて当たり前でした。一緒に仕事をしたり、グループ活動をしたり、何かを一緒にやろうとする時に、1つの価値観を持ち得ていないとグループ活動、協働ができません。実際、社会に入ったら必要なことです。価値観の分からない人同士で共同作業はできません。全部をわかり切っていると言っても中々難しいから、もし、意見に違いが出たら、その時はいろいろと話し合っていき、お互いのレベルを合わせていく思いはあります。

今、仕事から離れて、地域活動を行っています。思うことは、その人にとって仕事の部分と社会の部分の本当はあるのですが、学生時代には、仕事も無いし、社会も無いです。自分たちと仲間と学校だけしか周りには存在していません。そういう中で、卒業するとすぐに仕事というものに入っていかななくてはいけないことになります。そういう意味では、学校時代にもう少し、仕事というものを目の前に見せて訓練していくことがあっても良いのではないかと、思います。社会とも同時に付き合っていないといけません。心構えとか組織を学校の時代に少しでも話していないといけません。その子どもが大きくなっていくときに、少し訓練をしてあげた方がよろしいかという感じを

持ちました。

7 閉会

それでは、お時間となりました。本日、皆様からいただきましたご意見を基に、私たちも今後の教育活動にどう生かしていくか、検討を重ねて参りたいと思います。

学校長も申しておりましたが、皆様を厚木看護専門学校をサポートとして考えておりますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

では、第2回「明日の厚木看護専門学校考える会」を終了いたします。本日は、お忙しいところどうもありがとうございました。